

エンタイビオを自己注射される患者さんとそのご家族の方へ

エンタイビオ[®]

皮下注108mgペン

皮下注108mgシリンジ

自己注射ガイドブック



エンタイビオの自己注射を はじめられる患者さんとそのご家族の方へ

このガイドブックは、エンタイビオを処方されている潰瘍性大腸炎またはクローン病の患者さんやそのご家族の方に、エンタイビオ皮下注製剤（ペン、シリンジ）を適切かつ安全に使用していただくための手順とポイントを解説しています。

エンタイビオ皮下注製剤は、皮下に注射するお薬で、「ペン」と「シリンジ」の2種類のタイプがあります。点滴静注製剤を2回以上投与し効果がみられた患者さんに対して、1回1本の注射を2週間に1回、主治医に指定された日に注射することで効果が期待されます。

はじめは、医師と一緒に注射方法を練習していただき、慣れてきたら自己注射へと移行します。自己注射の方法についてわからないことや不安なことがありましたら、主治医もしくは看護師にご相談ください。

目次

ペンの使い方	注射の準備	注射に必要なもの	3
		ペンの保管方法	4
		注射の前に	5
		ペンの確認	6
	注射の仕方	注射部位の確認	7
	注射手順	7	
シリンジの使い方	注射の準備	注射に必要なもの	9
		シリンジの保管方法	10
		注射の前に	11
		シリンジの確認	12
	注射の仕方	注射部位の確認	13
	注射手順	13	
注射が終わったら		15	
エンタイビオQ&A集		17	



注射の準備

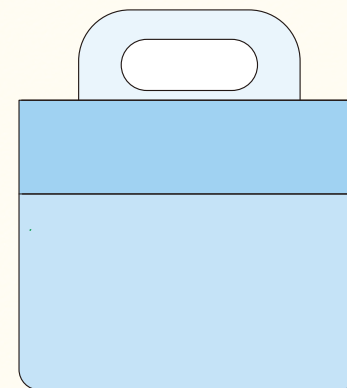
注射に必要なもの



エンタイビオペン



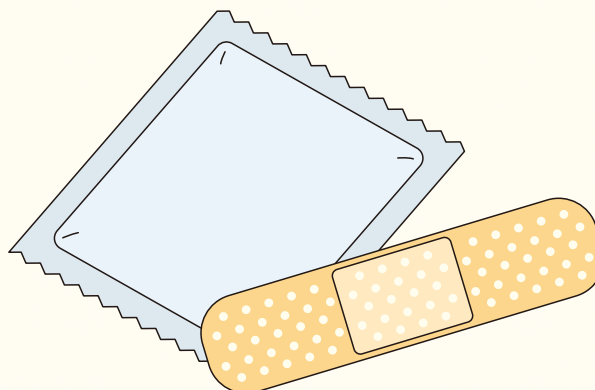
配置用マット



廃棄バッグ

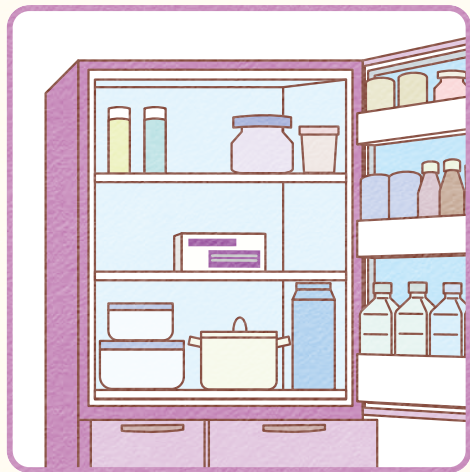


患者手帳



ばんそうこう、消毒用アルコール綿

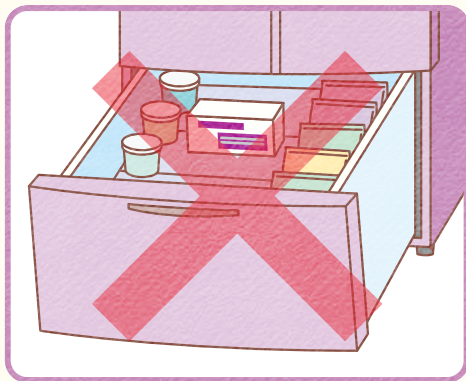
ペンの保管方法



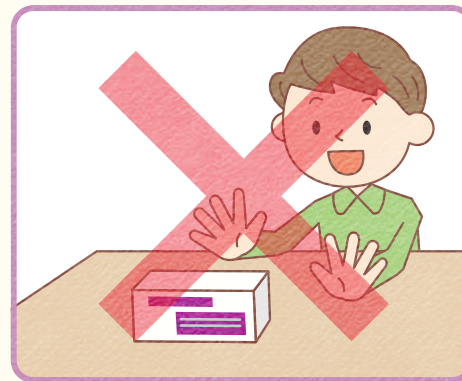
箱のまま2℃から8℃の
冷蔵庫で保管してください。

旅行などでやむを得ず冷蔵保存
できないときは、箱に入れた状態
で室温が25℃以下の場合は、7日
以内に使用してください。

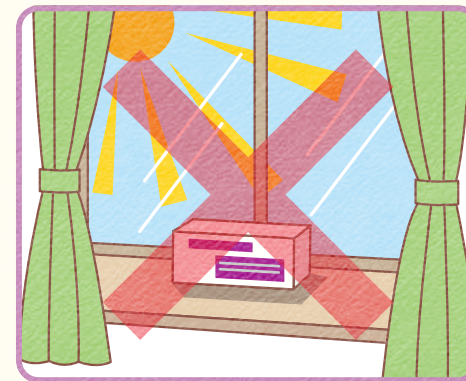
室温が25℃超30℃以下の場合は、
24時間以内に使用してください。



凍結させないでください。



子供の手の届かない場所
に保管してください。

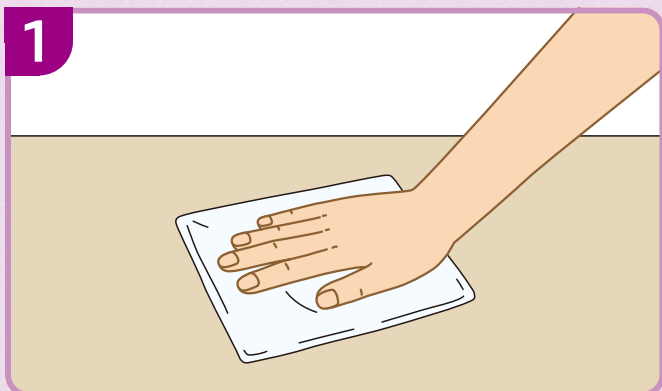


直射日光下に放置しないで
ください。

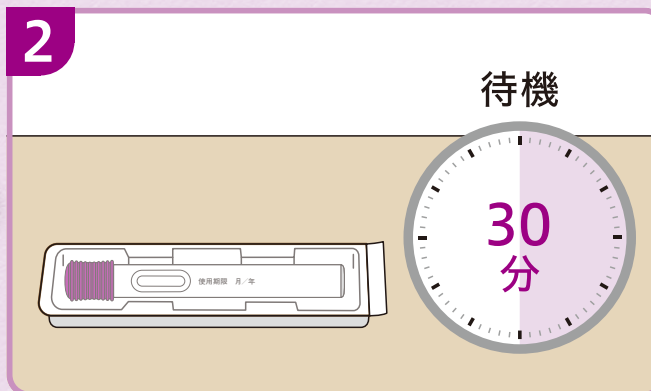


注射の準備

注射の前に



清潔で平らな場所を準備してください。



ペンを室温に戻してください。
室温に戻すために**30分間**
待機してください。



- 箱の封が貼られていなかったり破れていたりする場合には、本剤を使用しないでください。
- 箱に記載されている**使用期限を確認してください**。使用期限が過ぎている場合には使用しないでください。

- 別の方法で温めないでください。
- 直射日光下に放置しないでください。
- 注射の準備ができるまで本剤をブリスターから出さないでください。

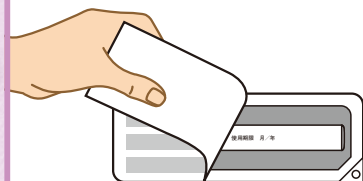
ペンの確認

1



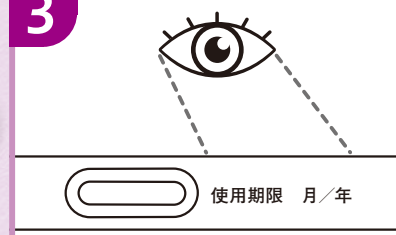
石鹸で手を洗う。

2



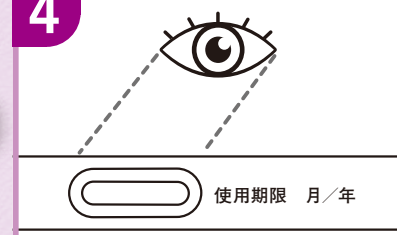
ペンを取り出す。

3



使用期限の確認。

4



薬剤を確認してください。
通常は、無色から黄色を
しています。



- 一部でも破損している場合には、本剤を使用しないでください。



- 使用期限が過ぎている場合には使用しないでください。



- 変色又は粒子が認められた場合には本剤を使用しないでください。
- ペンの内部に気泡が見えることがありますが、問題ありません。
- 振らないでください。

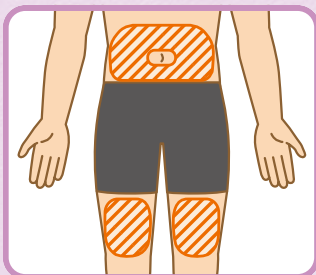


注射の仕方

注射部位の確認

腹部

※へその周囲5cm以内は避けてください。

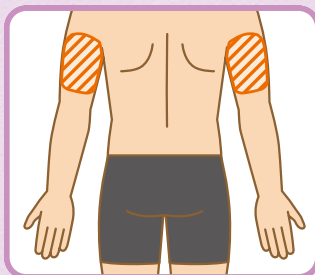


太もも前面

注射部位として、上記のいずれか1カ所を選んでください。

上腕背部

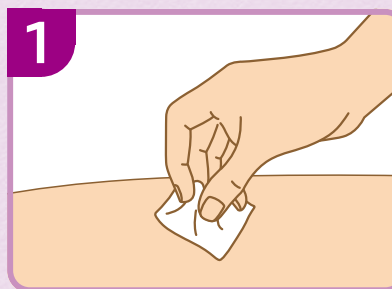
※ご家族が注射する場合



- 注射する部位は毎回変えてください。
- 前回の注射部位から**少なくとも3cmは離してください。**
- ほくろ、傷跡、あざのある部位や、皮膚が敏感な部位、皮膚に異常のある部位（傷、発疹、発赤、硬結など）には注射しないでください。

注射手順

1

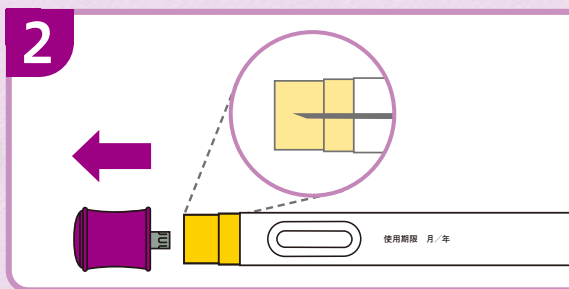


注射部位を消毒用アルコール綿で消毒し、その後、皮膚をよく乾かしてください。



- 注射する部位には触れないでください。

2



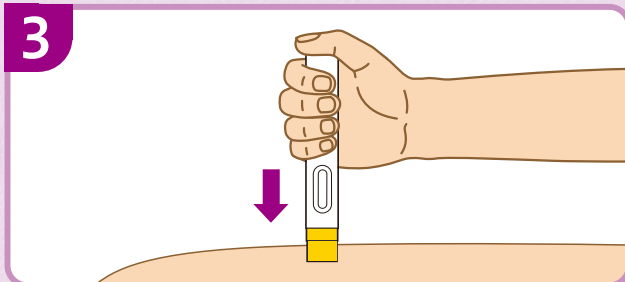
紫色のキャップをまっすぐ抜き、廃棄してください。

ペンは清潔な場所に置きましょう。



- 針刺し、異物混入、薬液の乾燥による針詰まり等が生じるおそれがあるため、**キャップは投与直前まで取り外さないでください。**
- 黄色のニードルシールドを手や指で触ったり押したりしないでください。
- 一度外したキャップは戻さないでください。
- ペンを落とした場合には使用しないでください。

3

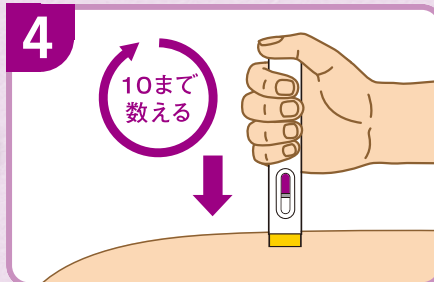


注射部位に対してペンを直角にあててください。
薬液確認窓が見えるようにペンを持ちましょう。



- 黄色の先端部を注射部位にあててください。
- 注射の準備ができるまでは押し込まないでください。

4

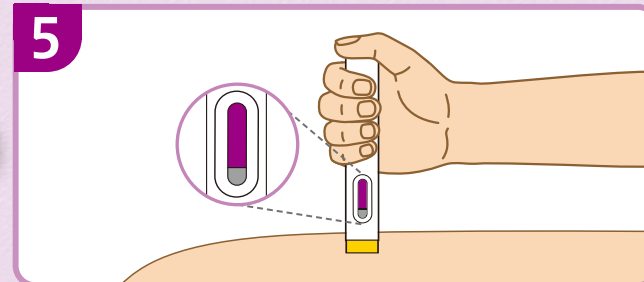


ペンをしっかりと押し込みながら、
10秒間待ちます。



- 注入の開始時と終了直前の計2回カチッという音が聞こえることがあります。

5



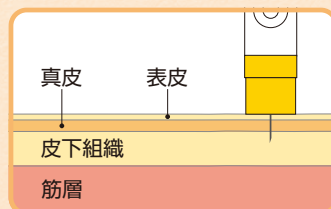
薬液確認窓が紫色になっているのを確認してから、
ペンを注射部位から離してください。黄色のニードル
シールドが降り、針を覆ってロックします。



- 窓の一部は灰色に見えますが、問題ありません。
- 注射部位に少量の出血がある場合には、必要に応じて注射部位にばんそうこうを貼ってください。
- 本剤は1回使用の製剤であり、再使用しないでください。
- 薬液確認窓が紫色にならなかった場合は、医療機関にご連絡ください。一部の薬剤が注入されなかった可能性があります。

皮下注射とは？

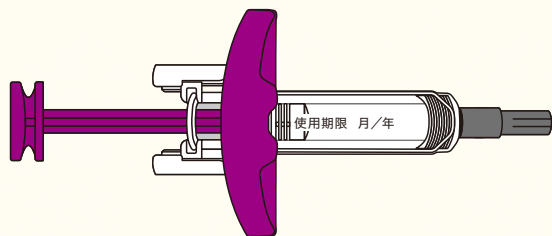
皮膚と筋肉組織の間にある脂肪層に行う注射のことです。
皮下注射に適している部位は、たるみがあって柔らかく、
関節や神経、血管、骨などから離れている部位です。
皮下脂肪の多い部位は、比較的痛みが少ないといわれています。





注射の準備

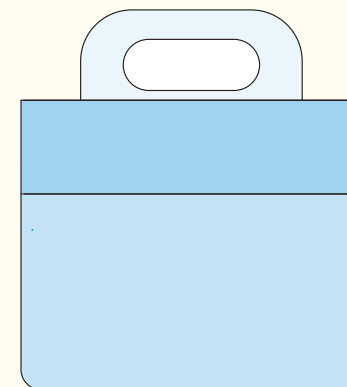
注射に必要なもの



エンタイビオシリンジ



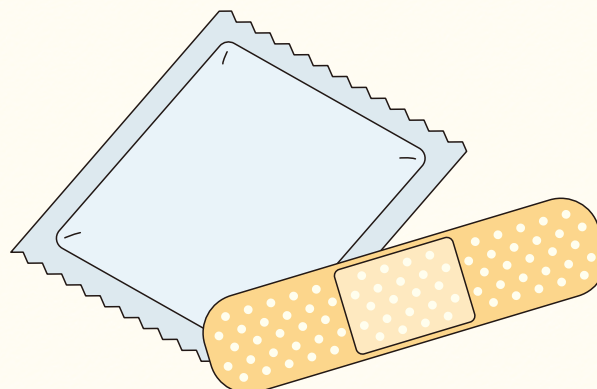
配置用マット



廃棄バッグ

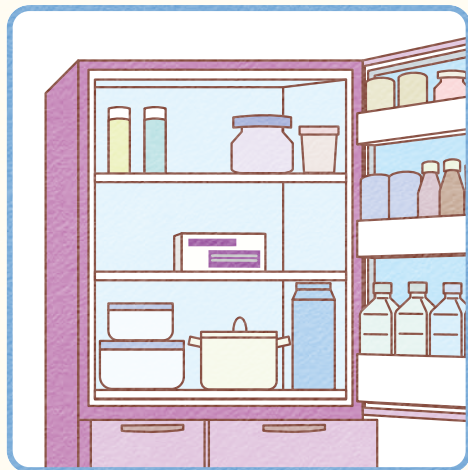


患者手帳



ばんそうこう、消毒用アルコール綿

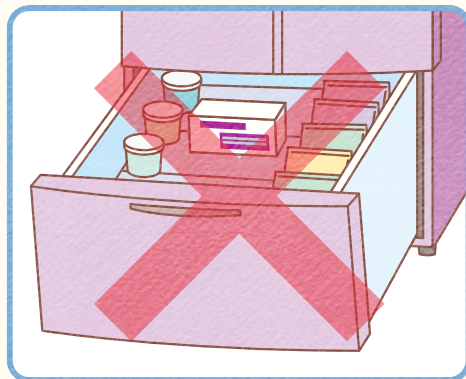
シリンジの保管方法



箱のまま2℃から8℃の
冷蔵庫で保管してください。

旅行などでやむを得ず冷蔵保存
できないときは、箱に入れた状態
で室温が25℃以下の場合は、7日
以内に使用してください。

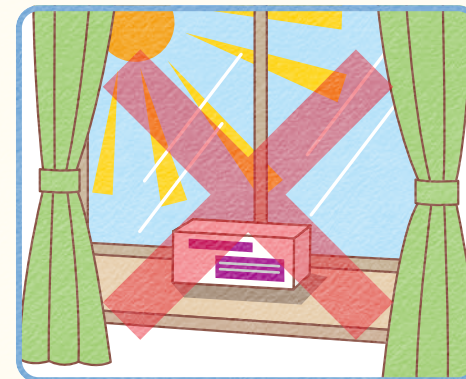
室温が25℃超30℃以下の場合は、
24時間以内に使用してください。



凍結させないでください。



子供の手の届かない場所
に保管してください。



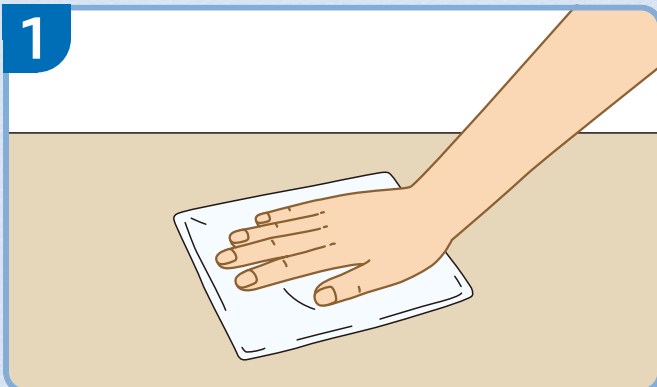
直射日光下に放置しないで
ください。



注射の準備

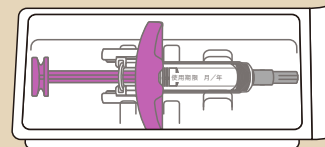
注射の前に

1



清潔で平らな場所を準備してください。

2



待機



シリンジを室温に戻してください。

室温に戻すために**30分間**待機してください。



- 箱の封が貼られていなかったり破れていたりする場合には、本剤を使用しないでください。
- 箱に記載されている**使用期限を確認してください**。使用期限が過ぎている場合には使用しないでください。

- 別の方法で温めないでください。
- 直射日光下に放置しないでください。
- 注射の準備ができるまで本剤をブリスターから出さないでください。

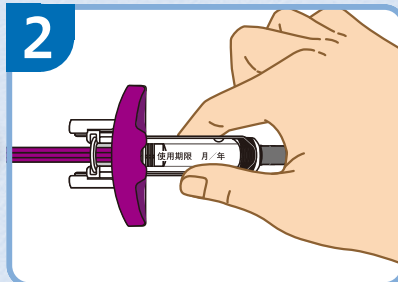
シリンジの確認

1



石鹸で手を洗う。

2

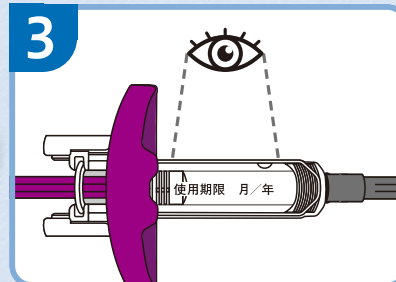


シリンジを取り出す。



- 紫色のプランジャーを触ったり持ち上げたりしないでください。
- 注射の準備ができるまでニードルキャップを取り外さないでください。
- 一部でも破損している場合には、本剤を使用しないでください。

3

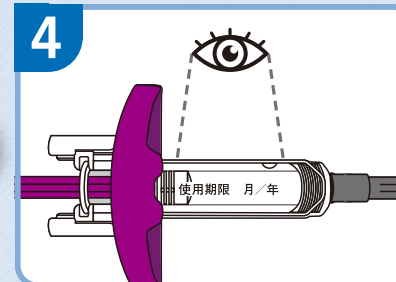


使用期限の確認。



- 使用期限が過ぎている場合には使用しないでください。

4



薬剤を確認してください。
通常は、無色から黄色をしています。



- 変色又は粒子が認められた場合には本剤を使用しないでください。
- シリンジの内部に気泡が見えることがありますが、問題ありません。
- 振らないでください。

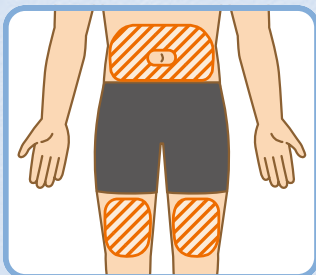


注射の仕方

注射部位の確認

腹部

※へその周囲5cm以内は避けてください。

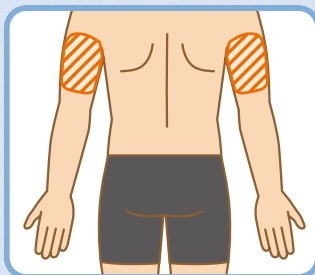


太もも前面

注射部位として、上記のいずれか1カ所を選んでください。

上腕背部

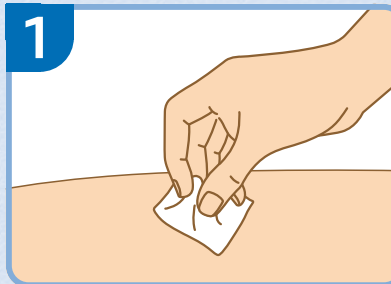
※ご家族が注射する場合



- 注射する部位は毎回変えてください。
- 前回の注射部位から**少なくとも3cmは離してください。**
- ほくろ、傷跡、あざのある部位や、皮膚が敏感な部位、皮膚に異常のある部位（傷、発疹、発赤、硬結など）には注射しないでください。

注射手順

1

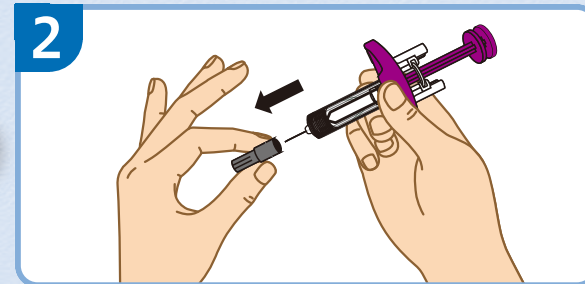


注射部位を消毒用アルコール綿で消毒し、その後、皮膚をよく乾かしてください。



- 注射する部位には触れないでください。

2

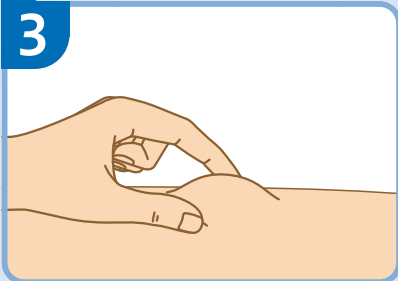


ニードルキャップをまっすぐ抜き廃棄してください。



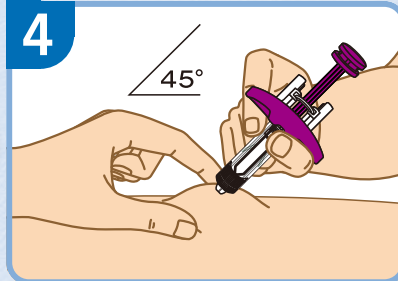
- 針刺し、異物混入、薬液の乾燥による針詰まり等が生じるおそれがあるため、ニードルキャップは投与直前まで取り外さないでください。
- ブランジャーに触れたり、引き戻したりしないでください。
- 針の先端から薬液が垂れることがありますが、問題ありません。
- 針に触れたり、一度外したニードルキャップを戻したりしないでください。
- シリンジを落とした場合には使用しないでください。
- 針が曲がったり折れたりしたものは使用しないでください。

3



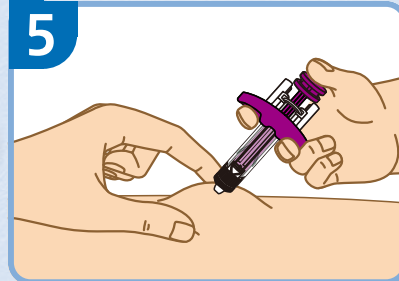
片手でシリンジを持ち、もう一方の手で注射部位のまわりの皮膚をつまんでください。

4



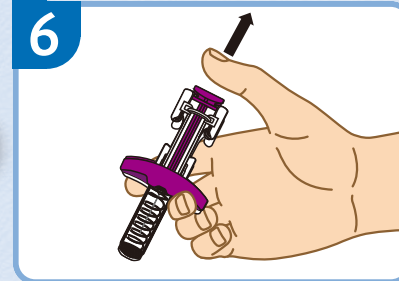
注射が完了するまでつまんだ皮膚を離さないでください。
約45度の角度でつまんだ皮膚の中へ最後まで針を刺してください。

5



薬剤が入りきるまでプランジャーを押し込んでください。注射が終わったら、**プランジャーを押し込んだ状態**で皮膚から針を抜いてください。

6



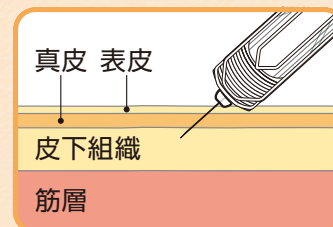
プランジャーから親指を離すとニードルガードが針を覆います。



- 注射部位に少量の出血がある場合には、必要に応じて注射部位にばんそうこうを貼ってください。
- 本剤は1回使用の製剤であり、再使用しないでください。

皮下注射とは？

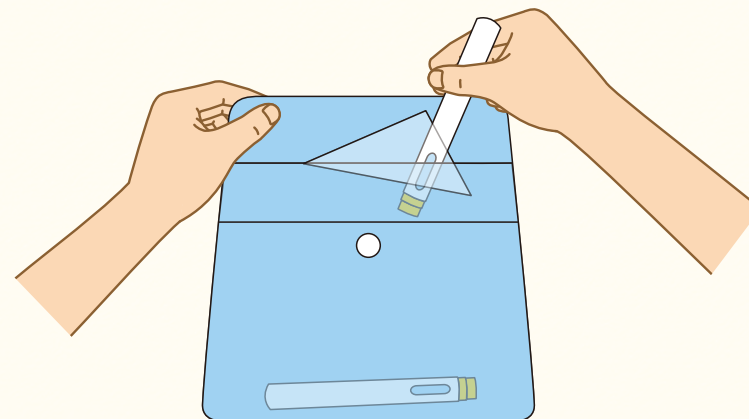
皮膚と筋肉組織の間にある脂肪層に行う注射のことです。
皮下注射に適している部位は、たるみがあって柔らかく、関節や神経、血管、骨などから離れている部位です。
皮下脂肪の多い部位は、比較的痛みが少ないといわれています。



注射が終わったら

ペン、シリンジの廃棄

- 使用済みのペン、シリンジは、使用后ただちに専用の廃棄バッグに入れてください。
- キャップなど、その他の消耗品は家庭の一般ゴミまたは廃棄バッグに廃棄してください。
- ペン、シリンジは家庭ごみとして廃棄(処分)しないでください。



注射の記録

体調をチェックし、自己注射の記録を「患者手帳」に書きましょう。

注射が終わったら、注射した日時と部位を患者手帳に記録します。これによって、次回の注射予定日や部位を確認することができます。体調の変化についても忘れずに記録しましょう。



体調の変化に気づいたら

エンタイビオの投与後に、「おかしいな」と思うことがありましたら、すぐに主治医もしくは看護師、薬剤師にお申し出ください。

その際、自己注射を記録した患者手帳がとても役立ちます。ご自身の症状を詳細に伝えるために、普段から患者手帳に記録することを心がけましょう。

特に、下記のような症状に気がいたら、次の診察日を待たずに、すぐに主治医もしくは看護師、薬剤師にお申し出ください。

気をつけるべき症状



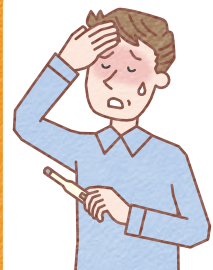
息苦しい



発赤
(じんましんなど)



心拍数が増える



発熱



咳



鼻水



注射部位が
赤くなる

エンタイビオQ&A集



ペン シリンジ

Q

予定日に注射を忘れてしまったのですが、
どうすればよいでしょうか？



A

主治医に連絡して、指示を仰いでください。

Q

予定日に注射ができないのですが、
どうすればよいでしょうか？



A

予定日に注射できないことがあらかじめわかっている
場合は、主治医に連絡して、指示を仰いでください。

Q

注射する時間は何時がよいでしょうか？



A

注射する時間は何時でも構いませんが、
注射する時間を忘れないようにするために、
毎回同じ時間に注射するようにしましょう。

Q

注射した後は、注射部位をもんだほうが
よいでしょうか？



A

注射後に注射部位をもむと腫れることがあるので、
もまないでください。

Q

薬液の中に気泡があった場合は
どうすればよいでしょうか？



A

ペンとシリンジの内部に気泡が見えることがありますが、
問題ありませんので、そのまま注射を行ってください。

Q

注射のとき、薬液が漏れてしまいました。
どうしたらよいでしょうか？



A

液漏れの程度を主治医に報告し、指示を仰いでください。

Q

注射したところがかゆくなったり、
腫れてしまったらどうしたらよいでしょうか？



A

ご自身の判断で塗り薬などを使用せず、
主治医に報告し、指示を仰いでください。

Q

注射前に体調変化が見られたときは、
どうすればよいでしょうか？



A

熱がある、風邪気味である、咳が出るなどの
体調の変化があったときは、
注射をやめて主治医の指示を仰いでください。

Q

注射部位が痛いのですが、
痛みをとるにはどうすればよいでしょうか？



A

あらかじめ氷などで注射部位を冷やしておく
と痛みが少なくなるといわれています。
また、一般的に皮下脂肪の多い部位に注射した方が
痛みが少ないと感じる方が多いようです。

Q

注射した後、お風呂に入ってもよいでしょうか？



A

入浴は可能ですが注射直後の入浴は避けてください。
また、体を洗うときなどに注射部位を強く
こすらないようにしてください。

Q

ペンが押し込めないのですが、
どうすればよいでしょうか？



A

主治医に連絡して、指示を仰いでください。

Q

注射の途中で、ペンを皮膚から
離してしまいました。どうしたらよいでしょうか？



A

もし、皮膚から離してしまったときに、液漏れが
あった場合は主治医に連絡し指示を仰いでください。
一度使用したペンは再使用できませんので、
15ページをご参照の上、廃棄してください。

Q

針を刺したら、シリンジ内に血液が
入ってきたのですが、どうすればよいでしょうか？



A

刺した部位での注射はやめて、その部位から
少なくとも3cm離れた場所を選び、注射してください。

※他の医療機関にかかるときには、医師にエンタイビオを投与していることを必ずお伝えください。

もしものときの連絡先

医療機関名・連絡先

.....

主治医



武田薬品工業株式会社